

校長会報

令和3年度 第3号
発行所
島根県小学校長会
事務局
松江市母衣町 55
県教育会館内
TEL (0852)27-8530
FAX (0852)67-3360

コロナ禍でうまれる価値観



邑南町役場 商工観光課 課長
寺本 英 仁

新型コロナウイルス感染拡大が全世界を襲ってから、二年が経過していようとしている。誰もが未知の経験で、絶望感や戸惑いもあったと思う。また、この感染に対する世代間の意識の問題にも私は注目をした。

高齢者は、感染による重症化リスクが高く、感染蔓延時期の初期段階から感染予防対策に細心の注意を払った。しかし、若者は感染による重症化リスクが低いため、通常の日常生活を継続する人が多く、感染が広がったという現実もあった。

マスクは、若者の感染を無責任な行動ととらえかねられない報道の内容があった。私も、このような報道を見るたびに、「若者の自分勝手な行動」

を否定的にとらえた時期もあった。しかし、感染収束に見通しも立たない今、彼らの貴重な青春を、このコロナ感染が奪っているのではないかと考えるようになった。

私の大学時代は、大学のキャンパスで、友達と勉強やスポーツを楽しむことが当たり前の「普通」であった。だが、コロナ禍での学生生活は、オンラインで、自宅で授業を受けることになり、キャンパスで友達と交流する時間はめっきり少なくなっている。また、先般の高校サッカー全国大会の準決勝では、チーム関係者内にコロナ感染者が出たため、敗退を余儀なくされたチームもあった。三年間どれだけの努力をしてその舞台に上りつめたか、彼

らの努力を考えると本当に言葉のかけようもない。

既に、このコロナ感染問題も、終止符をそろそろ打たないといけないと思う。それには、予防ワクチン及び治療薬を含む医療体制の整備が不可欠な存在になってくるのは間違いない。そして、個人で出来る努力として、徹底的な感染対策が必要になってくる。マスクの着用、手洗い、消毒など基本的な生活行動である。これは、世界と比較しても日本は徹底しているからこそ、夏のデルタ株が蔓延している時期にオリンピックを開催した第五波も乗り切ることができたと、私は確信している。

現に、個人の感染対策の徹底により、インフルエンザの流行はこの二年間抑えられている。ウイルス自体は自分自身で生き残ることはできないため、人間や動物の体内に侵入していく。しかし、抗体を生物が持つようになると、生き残るために感染力を強くするが、微弱になっていき、風邪のような症状になって収束するという新聞記事を読んだことがある。未だ、第六波のオミクロン株の正体は不明でわからないことが多いので、軽々にコロナ問題が収束をしたとは思わない。医療体制など外的環境の整備ももちろん大事だが、このコロナ禍を収束させるのは、人々のメンタルの変化が重要だと考える。

冒頭で、世代間でコロナ感染に対する考え方に差があると話をしたが、地方と都市の間においても、この問題の考え方に変化が出ている。

都市部は、感染問題により医療の

ひっ迫は重要な問題であるが、それを上回る経済の問題が大きいのしかかってきている。この二年間で、都市部の飲食店や観光業は、どれだけ休業を国から迫られたことだろう。もちろん、休業補償などある程度の補償はあったものの、大規模に事業を展開している事業者にとっては、この補償は十分ではなかったと耳にする。もはや、経済を動かさないと、自分たちの生活が脅かされている人たちが増えているのも事実だ。そうなることによって、島根県のような高齢者県で、感染が今のところ襲ってくる可能性はあると私は考える。

その時に必要なことは、医療体制の充実、行政のコロナ対策のしつかりとした指針、そして一番大事なことは、このコロナ感染問題について、一人一人が成熟した考えをもち、行動をしていくことだと思ふ。この小さな個人の考え方と行動の成熟度が、コロナ感染に対応する最も大事な力で、成熟した国民、県民になっていくことが大事だと考える。

この三月、私の息子が修学旅行に行く。普段は関西方面に行っていたのが、県内に変更して松江に行くそうだ。これも、コロナがなければできなかった地元を見つめる好機ととらえると、悪い話ではないような気がする。

子供たちの夢や楽しみが実現できるよう、成熟社会、一人一人が自覚を持って感染対策を徹底できる社会が近づいていると、私は、今のコロナ禍に感じている。



朝礼講話

一粒の米の話から

湯浅 哲司

(安来市立能義小学校)



これから始まる一年間に、決めたことをしっかりと続けていけるように、と思つて話をしたいと思ひます。

皆さんは勉強でも運動でも生活でも毎日続けていることがありますね。でも、ときには面倒な気持ちや怠け心を起こしたりすることがありませんか。誰でも一度や二度はあると思ひます。

そういう人に話を聞くと、毎日毎日積み重ねることがちよつと苦手なんです。校長先生もそんな小学生でした。ある日当時の担任の先生はこんな話をみんなにされました。

【毎日続けて家で勉強するのは、瓶の中に一つずつ米粒を入れるようなものなんです。もしも、勉強しなかつたら瓶から一つ米粒を出すものと考えてください。増えるのも減るのもちよつとだから、一日さぼっても、減つたかどうかわかりません。二日でも、一週間でも。でもね、これが一ヶ月、半年たつ

とやっぱりお米は減つたなあつてわかるもの。そのときになつて「あつ」て思う。でも、どう頑張つてもすぐには元に戻らない。元になるには、ずいぶん日にちがかかるものですよ。】

そのとき同級生の誰かが「あつと思ひるのはどれくらいだろう」と言つたので、私たちは「十日くらい」、「一ヶ月」、「一年」など口々に言ひました。

先生は「続けてきたことが無駄にならぬよう、早く気づける人になりたいね」と言われたように憶えています。さて、皆さん。毎日続けていることで「一日くらい」と思ひ日もあるでしょう。実際一日くらい大丈夫なんだけれど、そんなのが続くと、いつか「あつと思ひ」日がきます。こんなことをちよつと頭の中に置いといてもらうといいかな、と思つてお話をしました。

ところで、私はこの話を思ひ出しながら、毎日何かを頑張つて続けているみんなを応援できないかなと考へました。それでこの瓶を用意しました。この瓶にあいさつや返事が元氣よくできたな、友達と協力できたな、目標を達成できたな、などという日に小さくてキラキラした玉を一つずつ入れていこうと思ひます。少しづつたまつていって、キラキラがいっぱいになつてあふれるのを楽しんでいきます。皆さん粘り強く続けていきましよう。お話を

おわります。

読書が好きな子どもに

河野 直樹

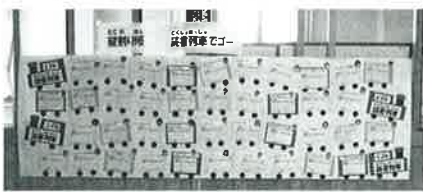
(津和野町立青原小学校)



青原小では、学期に一回「読書週間」を設定しています。この読書週間にあわせて「縦割り班 読書列車でゴー！」という図書館イベントを開催し、先週、すべての班に「読書列車完了証」を手渡しました。青原小全員で取り組んだ成果です。

「読書列車でゴー！」では、「雨がでてくる本」「椋鳩十の本」「はれときどきぶたシリーズの本」などの十個の読書のお題を縦割り班で担当を決めて読みましたね。ロング昼休みに縦割り班ごとに読書をするという時間を設け、全校で読書に親しみました。

この取り組みを行うことになつたのは、児童朝礼での図書・広報委員会の発表が始まりです。「本が好きで読書が楽しいと思つている人は多いけれども、家では本をゆつくり読むことができない」というアンケート結果を発表し、「みんなにた



くさん本を読んでもらうためにはどうすればいいですか」と全校のみんなに問いかけました。そうすると「学校で読む時間をつくつたらいいのではないか」と六年生から提案があり、「縦割り班 読書列車でゴー！」という図書館イベントを開催することになつたのです。

これらのイベントを通して、本の楽しさを感じたり、いろいろな本に出会うきっかけになつたりしたいと思います。さて、読書をするときどんないいことがあるでしょう。読書をするといふことと(メリット)を四つ紹介します。

- (一) 想像力が磨かれる
 - ・登場人物の心情を想像する力が養われ、人の気持ちを理解できるよ
 - うになると言われています。
 - (二) 集中力が身につく
 - ・物語の世界に入り込むことで、集中力が養われるそうです。
 - (三) 国語力が身につく
 - ・意味の分からない言葉を前後の文章から推測することにより読解力が身につくそうです。
 - (四) ストレスが解消される
 - ・楽しい本を読むことで心がリラックスしたり、読書をするので気持ちも穏やかになつたりすると言われています。
- こんなにも読書をするといふことがあるのです。これからも、しっかりと読書をしましよう。

理事会部会報告

総務部

総務部では今年度も鳥根県教育委員会との意見交換会や事業計画並びに予算案についての検討、見直し、会務や予算の執行について協議を行いました。

○県教委との意見交換会について
各市郡理事へのアンケート調査結果をもとに、「教職員を取り巻く現状について（長時間勤務・メンタルヘルス・働き方改革・小学校の教科担任制について等）」と「GIGAスクール構想に基づくICT活用教育について」の二つの話題について意見交換を行いました。大橋大常任理事（益田・高津小）と福本美由紀常任理事（隠岐・磯小）のお二人には、貴重な情報提供をしていただきました。

○事業並びに予算について

予算の見直しについての検討事項を確認し、大筋は昨年同様継続して経費削減努力をしていくこととしました。また、全連小関係の会合に併せ、県内の本会会合についてもオンライン会議化していくことを話し合いました。来年度は、昨年度購入したパソコンを活用して、六月の第二回理事会及び七月の第一回常任理事会をオンライン会議とします。

（総務部 高橋和弘）

対策部

対策部では、主として次の内容について活動を行いました。

○「県小中学校長会教育条件改善対策委員会」と呼称した取組

○「全連小対策連絡協議会」「中国地区連絡協議会（中国地区小学校長会理事会）」への参加

○全連小によるアンケート調査への回答

今年度も「県小中学校長会教育条件改善対策委員会」で、子どもたちの教育環境や教育条件をよりよくするため、また、教職員の勤務条件等の改善を図っていくために、県教育委員会や県人事委員会等に要望活動を行いました。

また、全国小学校長会や中国地区小学校長会、各市町村小学校長会との連動を図り、国や県の動向も踏まえながら、学校に真に必要な教育条件とは何か真摯に考えてきました。

コロナ禍がなかなか収束を迎えない中、リモートでの協議も増えました。が、各市郡の理事の皆様と会員の皆様のご協力を得ながら意見を集約し、予定された要望活動を行うことができました。

今後、鳥根の教育の一層の充実をめざして要望活動を進めていきたいと考えています。

（対策部委員長 高橋均）

調査研究部

調査研究部では、今年度、主に次の内容について活動を行いました。

○調査活動について

全連小の調査について、六月十八日の第二回部会で調査への協力を依頼する学校の選定等、調査の進め方について協議しました。八月初旬に対象校の校長先生に調査依頼をし、集約して九月初旬に全連小に回答しました。ご協力いただきました校長先生方には、回答期間が短くご迷惑をおかけしました。ご協力に感謝いたします。

○研究大会について

今年度予定されていた、鳥根県（飯石大会）、中国地区（広島大会）、全連小（石川大会）の研究大会は、いずれも誌上発表となりました。飯石郡小学校長会の皆様には、数年前から研究大会の準備をしていただき、開催に向けて何度も協議をしてくださいました。お送りいただいた大会要項を拝読し、あらためて皆様のご尽力に感謝を申し上げます。

部会では、令和八年度から令和十四年度までの研究大会の開催ブロックと発表担当を検討し、第二回理事会にて提案しました。各市郡からの意見を伺って決定する予定です。今後も充実した調査研究活動となるよう取り組んでいきたいと考えています。

（調査研究部委員長 木村真介）

広報部

今年度は、主として次のような広報活動を行いました。

○「校長会報」

編集方針を立て、会員の声を生かしながら、年三回発行しました。

編集に際しては、本会の活動の状況や支部活動についての報告等を掲載し、資料性・記録性を大切にしました。

また、全連小の動きや鳥根県教育庁教育監の言葉、「社会に開かれた教育課程」をテーマにしたシリーズ特集、新校長の紹介や学校紹介等の欄を設け、会員の研修、会員相互の連携や学校運営に資することをめざしました。

○「校長樹林」

今年度は、江津支部に編集の担当をお願いし、二月発刊となりました。

六月に編集方針が示され、それに基づいて原稿依頼や複数回の校正作業が行われました。十二月には臨時広報部会を開催し校正作業を行い、会員の皆さんのお手元に届けるに至りました。

○諸活動（全連小関係を含む）

「小学校時報」等の原稿依頼に対して、会員の方々が鳥根大学の先生に快く応じていただき、鳥根の教育の一端を発表することができました。

この一年、ご協力いただいた多くの皆さんに、心より感謝いたします。

（広報部委員長 仙田浩志）

事務局だより

事務局長 高橋 和弘

(松江市立大野小学校)

一 第六十三回 鳥根県小学校長会 教育研究大会飯石大会

今年度も誌上開催となり、大会要項が飯石郡小学校長会によって作成されました。「自ら未来を拓き」とともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」くふるさとを学びの原点に 主体的・協働的に学び合い 豊かな未来社会を創る子ども

の育成の大会主題のもと、開催要項、分科会発表資料を中心にまとめられました。講演予定だった講師の飯南町注連縄企業組合 那須久司様、飯南町教委 石飛幹祐様の『日本一大しめ連縄の里飯南町』と題してのお話が聞けなかったのはとても残念ですが、またの機会を楽しみにしたいと思います。

分科会発表資料として、第一分科会では、出雲市立出東小学校の飯塚積校長先生に「校長会の組織を生かして進める若手教員を育成するミドルリーダーの育成」校内での取り組みと研修会を通して「く」をテーマに、第二分科会では、江津市立郷田小学校の佐藤淳校

長先生に「ふるさとと自分の未来を創るキャリア教育の推進」をテーマに、第三分科会では、大田市立温泉津小学校の高橋雄司校長先生に「学び合い つながり合い 創り上げる子どもの育

成」地域から学び、地域へ学びを返す学校づくりを通して「く」をテーマに、全会員が今後の学校経営に活かすことのできる貴重な実践資料をご発表いただきました。ありがとうございます。

飯石郡小学校長会の皆様には、昨年度より準備を進めていただき、大会要項の作成等にご尽力いただきましたこと、心よりお礼申しあげます。

二 第六十八回 中国地区小学校長会 教育研究大会広島大会

呉市で開催予定だった標記の大会も誌上開催となりました。分科会では本県を代表して、第四分科会「知性・創造性」で大田市立温泉津小学校の高橋雄司校長先生に、第十一分科会「社会形成能力」で江津市立郷田小学校の佐藤淳校長先生に、誌上発表していただきました。ありがとうございます。

三 第七十三回 全国連合小学校長会 研究協議会石川大会

金沢市で開催予定だった標記の大会も誌上発表となりました。分科会での発表割り当てはありませんでした。

全連小鳥根大会を来年にひかえて実

際の大会運営を間近に見られる機会となるはずでしたが、誌上開催となったことは本当に残念でした。大会を準備された石川県校長会の皆様にご慰労申しあげます。

四 第七十四回 全国連合小学校長会 研究協議会鳥根大会

今年度は松江市をはじめとして安来市、出雲市、雲南市の校長先生方も含めた拡大実行委員会が発足しました。中心になる実行委員会事務局、総務部、運営部、研究部、編集部、会員部の各部署で準備を進め、全連小に大会大綱を提案し了承されました。来年度へ向けていよいよオール鳥根で準備を進めていきます。大会大綱の修正等理事会で協議、承認いただきありがとうございます。

五 第四回理事会（お知らせ）

令和四年三月四日（金）、サンラポ一むらくもにおいて開催します。今年度の活動の反省と次年度の活動計画等を検討します。

六 令和四年度

第一回理事評議員会（お知らせ）

令和四年四月二十八日（木）、鳥根県民会館にて、新年度の組織、事業計画等について協議する予定です。

令和三年度 会務報告

| | | |
|----|----|---------------------------|
| 4 | 13 | 事務局会① |
| 21 | 28 | 事務局会② |
| 28 | 28 | 第一回理事評議員会 |
| 5 | 28 | 事務局会③ |
| 6 | 18 | 第二回理事会 |
| 7 | 1 | 事務局会④ |
| 21 | | 第一回常任理事会 |
| 30 | | 中国地区理事会（リモート） |
| 8 | 6 | 第三回理事会、 県教委との意見交換会 |
| 10 | 1 | 県小学校長会教育研究大会飯石大会（誌上開催） |
| 14 | | 全連小石川大会（誌上開催） |
| 11 | 5 | 事務局会⑤ |
| 12 | 12 | 中国地区理事会（リモート） |
| 12 | | 中国地区小学校長会教育研究大会広島大会（誌上開催） |
| 12 | 16 | 広報部会 |
| 1 | 13 | 事務局会⑥ |
| 2 | 4 | 中国地区理事会（リモート） |
| 3 | 4 | 第四回理事会 |
| 30 | | 監査会 |

編集後記

例年は各種研究大会の報告を載せていましたが、今年度も昨年度同様新型コロナウイルス感染症のため軒並み誌上発表となりました。詳しい報告につきましては、校長樹林に掲載していますので、ご覧ください。

本年度、最後の会報をお届けします。ご多用の中、一年間ご協力、ご執筆いただきました皆様、心からお礼申し上げます。（松尾）